

第6学年 学級活動（1）指導案

特別活動研究室

- 1 活動題「スマイル99 思い出に残るイベントをつくろうプロジェクト！」
議題「スマイル99 思い出に残るイベントをつくろうプロジェクト」の計画を立てよう

2 活動題設定までの経過

- 本活動は、学級目標である児童の「みんな笑顔 - なかよく笑顔で 個性を生かして 協力し 何にでも挑戦して 心に残る一年に - 」という願いから生み出された。本学級では、これまでに5回の学級会を行っている。1学期には4回、内容はそれぞれ、学級目標、係活動、クラスの歌、1学期最後の集会に関するものであった。また2学期に1回、係活動について話し合っている。

本活動題は、教師からの「6年生全体を巻き込んで、卒業を見通しての活動も企画してみてもどうか」という声かけのもと、議題ポストに入れられていた「思い出に残る作品を作りたい」「3学期にタイムカプセルを作りたい」「学年で集会をしたい」等の議題案を統合する形で、議題として取り上げることとした。

本活動題の「スマイル99」には、「99人の6年生全員で」という提案者の思いや願いが込められている。学年で協力したり競い合ったりしていく中で、学級への所属感を高めて学級目標を達成していこうとする態度を育てるとともに、学年としてのまとまりを強め、卒業へ向けて学年としての気持ちを一つにしていこうとする態度を育てる上で、大変意義深いと考える。

- 本学級の児童は、明るく素直で男女の仲もよいほうである。学年の当初は、男女ということを意識している部分もあったが、日頃のグループでの活動や休み時間の「なかよし遊び(集会)」等を通して、仲良く触れ合うことができるようになってきた。しかし、言葉遣いの問題や、友達同士の人間関係が希薄な部分もあり、様々な集団活動を通して学級への所属感を高め、学級目標である「みんな笑顔」の学級に近づけたいと考える。

学級会については、ほとんどの児童がはじめての経験であった。これまでの経験から何となく話し合いをすることはできていたが、全員でよりよい考えにしていこうという姿は見られず、安易な多数決に流されがちであった。しかし、少しずつ経験を積んでいくうちに、みんなで話し合って意見をまとめていくことに楽しさを感じてきたようである。司会者グループも教師の助言を受けながら意欲をもって取り組んでおり、他の児童も司会者グループに興味をもっている。しかし、自ら進んで課題を見つけることができる児童はまだまだ少ない。また、話し合いが進むにつれて発言者が決まってきたり、集中力がなくなってきたりと、課題も多い。

3 学級経営、組織づくりとの関連

本学級では、学年当初に「こんな学級にしたい」という思いを一人一人が出し合い、それをまとめる形で学級目標を「みんな笑顔 - なかよく笑顔で 個性を生かして 協力し 何にでも挑戦して 心に残る一年に - 」としている。また、係活動、当番活動の違いを児童に伝え、係活動においてはそれぞれ児童なりに創意工夫しながら、意欲的に係活動に取り組むことができている。また、当番でも係でもないが誰かがやらないと困るという仕事については、生活班を単位として交代で受け持たせている。

学級会については、司会グループを7グループ編成し、輪番制で計画委員会を組織している。教師も入って計画委員会を開き、徐々に児童自身で計画委員会を進めていけるように指導している。ほとんどの児童が計画委員の仕事に興味をもっており、みんなが計画委員会、学級会の司会グループが回ってくるのを楽しみにしている。

また、学級会の流れについては、児童全員にマニュアルを渡し、全員が把握できるようにし、話し合いも活発になってきた。ただ、発言する子が偏ってしまったり、個人ノートに自分の考えを書いていてもなかなか発表することができない子がいたり、課題も多い。全ての子が、安心して自分の考えを発表でき、より話し合いを深め、一人一人が納得し、満足する学級会になるようにしていきたい。

4 本活動題とキャリア教育の「4つの能力」とのつながり

本活動題の「スマイル99 思い出に残るイベントをつくろうプロジェクト！」は、学年での活動を通して、学年としてのまとまりを強め、卒業へ向けて学年としての気持ちを一つにしていく活動である。本活動では、次のような児童の姿が期待できる。

(ア) 将来設計能力とのつながり

- ① 学校生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる児童
- ② 学級活動における役割の関連性や変化に気付く児童
- ③ 卒業までのことを考える大切さが分かり、今しなければならないことを考える児童

(イ) 情報活用能力とのつながり

- ① 自分に必要な情報を探す児童
- ② 個人やグループでまとめたことを発表する児童
- ③ 学級活動を通して学んだり体験したりしたことと、日常生活との関連を考える児童

(ウ) 人間関係形成能力とのつながり

- ① 自分の長所や欠点に気付き、自分らしさを発揮する児童
- ② 話し合い活動の積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする児童
- ③ 思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする児童
- ④ 学級活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする児童

(エ) 意思決定能力とのつながり

- ① 学級活動で、自分のやりたい役割、やれそうな役割を選ぶことができる児童
- ② 学級・学校生活での課題を見つけ、自分たちの力で解決しようとする児童
- ③ 将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力する児童

5 指導にあたって

(1) 事前

司会グループについては、自分たちの力で見通しをもって学級会を進行していくことができるように、事前の打ち合わせを十分に行っておく。司会の進め方についてのマニュアルを用意し、司会グループの児童が安心して司会進行ができるようにするとともに、発表した人のチェックリスト、アイデアの一覧表等の使い方についても確認しておく。

提案者については、この「スマイル99 思い出に残るイベントをつくろうプロジェクト」全体の実行委員として、提案理由の説明をしてもらう。そして、教師からもアイデアを出しながらいくつかの提案(プロジェクト)グループを作る。自分たちが提案する内容がフロアの友達に分かりやすいように、身近な情報を収集し、提案に用いる資料や提案方法についての打ち合わせやリハーサルを十分に行っておく。

フロアの児童については、個人ノートに提案者が提案する内容に対しての付加・修正した方がよい事項について、提案理由やめあてに沿った自分の考えとその理由を書かせる。各提案グループの原案に対して、他のクラスに提案しに行くにあたって、よりよい提案ができるようにアイデアを出し合っていく。また、個人ノートにコメントを入れて、学級会での発表への意欲付けを行っていく。さらに、個人ノートに書かれた児童一人一人の付加・修正のアイデアを一覧表にして掲示しておく。そうすることで、「他の友達がどんなアイデアをもっているのだろう」「どうしてだろう」「同じアイデアの人に理由を聞いてみたいな」という、話し合いに向けての児童の意欲付けや、話し合いの方向付けをしていく。

(2) 事中

本時の話し合いにおいては、「付加・修正型」で話し合いを進めていくこととなる。各提案グループから出された原案に対して、提案者やフロアの児童で、よりよい提案となるように付加のアイデアや修正するアイデアを出し合っていく。児童には、話し合いの始めの時点で、本時の話し合いの型、決定の方向性を伝えておくこととする。そうすることで、児童が決定場面までの見通しをもって話し合いに臨めると考える。

交流場面においては、話し合いの場面を「提案する」「質問する」「付加・修正の意見を出す」「整理

する」「まとめる」場面に分けて進めていく。また、黒板には提案グループに対して「付加の意見」「修正の意見」を板書し、「意見を出した人」のネームカードを貼り、だれがどんな立場で話し合っているのかが分かるように整理させるようにする。そうすることで、児童自身が話し合いの流れを整理しながら、話し合いに臨むことができると考える。その際、学級目標や提案理由に立ち返って意見を言うように、最初の「先生の話」のところで児童と確認しておく。また、話し合い場面での発表の仕方のマニュアルを用意しておく。そうすることにより、児童に「こういう意見を言いたいときは、このように言えばいい。」という安心感をもって、話し合いに臨めるようにする。

集団決定場面においては、それまでの話し合いを生かし、まず「整理する」場面で「付加・修正の意見を出す」場面で出された付加・修正の意見を受けて、各提案グループで原案の見直しを行う。そして、見直した原案を「まとめる」場面で発表し、全員で学級目標や提案理由に沿ったものになっているかを確認していく。

(3)事後

決まった内容を受けて、各提案(プロジェクト)グループで他のクラスへの提案資料を作成し、提案のための役割分担やリハーサルをする。また、提案までの計画表を作成し、掲示しておくようにする。提案当日は、一人一人の提案の様子や、それまでの準備での活動を称賛し、「みんなの力で素晴らしい提案ができた。」という教師の喜びを伝えていくようにする。提案後は、学級目標に照らしながら振り返りをし、個人だけでなく、学級としての成長にも気付かせていきたい。

また、提案した内容についてそれぞれのクラスで話し合いをしてもらい、各クラスからの意見を持ち寄って拡大学級会(学年会)を開き、学年全体で取り組む活動について話し合い、3学期の活動に実践につなげていきたい。

6 目標

- クラスを学級目標に近づけるために、それぞれの役割を自覚しながら学級会を計画・実行し、学級の一員としての自覚や連帯感を深め、満足感、達成感を味わうことができる。
(関心・意欲・態度)
- 自分の考えを提案理由と結びつけながら、提案をよりよくするための工夫を考えることができる。
(思考・判断)
- 自分の考えを、その理由とともに友達に分かりやすく伝えることができる。
(技能・表現)
- 話し合いで決まったことが分かり、自分の役割を果たすことができる。
(知識・理解)

7 指導計画

(1)事前の活動

児童の活動	教師の指導と援助	日時
1 議題案を募集し、計画委員会で議題を選定する。	○ 卒業に向けて学年全体で活動できることはないかと呼びかける。 ○ 学年全体で行える活動であることを、提案者と打ち合わせをする。	10月19日 昼休み
2 計画委員会で話し合いの柱、提案理由を決め、司会グループの役割分担をする。また、提案者を含めた実行委員を組織しておく。	○ 話し合いの柱については、適宜助言しながら特に話し合いが必要なものを計画委員会で決められるようにする。	10月20日 昼休み
3 卒業に向けて学年全体でどんなことをしたいか、アンケートを行う。	○ 実行委員でアンケートを作成する。「思い出を作る」ためなのか、「思い出を残す」ためなのかを明確にして書くように促す。	10月23日
4 アンケートの結果をもとに、提案	○ 同じもの、似ているものを統合・整理	10月24日

理由に沿うかという視点で実行委員でアイデアを絞り込む。	し、3～4つに絞る。	
5 提案グループを募り、原案を作る。	○ フロアの友達に分かりやすい提案ができるように、提案の資料(具体物や写真などの具体的なもの)や提案方法(実際に活動してみせる、具体物を見せる・触らせる etc)を工夫させる。原案には、プロジェクトの目的・内容・方法・日時などを書かせる。	10月24日 ～27日
6 各提案グループの原案を掲示する。	○ 各提案グループの原案を書いた画用紙を、教室の見やすい位置に掲示する。	10月30日 ～31日
7 議題説明会を開く。	○ 各提案グループの原案に対して、付加・修正の意見を個人ノートに書く。理由も必ず書くようにする。その際、学級目標や提案理由、話合いの柱に立ち返らせる。	11月1日 朝の時間
8 計画委員会で、話合いの進め方について打ち合わせをする。原案の提案者のリハーサルを行う。	○ 十分に打ち合わせを行い、自信をもって取り組めるようにする。	11月2日 昼休み

(2)本時の活動

本時 平成18年11月6日(月) 第5校時 第6学年教室において

①ねらい

- 自分の考えを学級目標や提案理由と結びつけながら提案理由やめあてに沿って話し合うことができる。(思考・判断)
- 自分の役割を自覚し、考えをはっきり発表したり、友達の意見に反応を返したりすることができる。(技能・表現)

②活動計画

話合いの順序	指導上の留意点
1 始めの言葉	○ 明るく大きな声で、あいさつや紹介ができるように伝えておく。また、話合いに対する自分の思いを伝えることができるようにしておく。
2 司会者の紹介	
3 議題の確認と提案理由の説明	○ 提案理由の大切な部分を、板書でも強調しておく。
○議題 「スマイル99 思い出に残るイベントをつくろうプロジェクト」の計画を立てよう	
○提案理由 6年生全体で自分たちで計画を立てて、最後に、長住小学校は楽しかった、6年間過ぎてよかった、と思えるような思い出を作りたいから。 ・ 6年間の思い出が残るように ・ 最後に「やりとげた!」と思えるような思い出を残す ・ もっと6年生全体が仲良くなって、そして気持ちよく卒業するため	○ 提案者の議題に込めた思いや願いも、フロアの児童に伝えるようにする。
4 話合いのめあての確認	

<ul style="list-style-type: none"> ・ A小の6年生としてのまとまりを深めるためのプロジェクトを、2組と3組に受け入れてもらえるような内容にするための話し合いをしよう。 ・ 友だちの考えをよく聴いて、自分の考えを進んで発表しよう。 	
5 先生の話	○ 提案理由、話し合いのめあてに沿った話し合いになるよう、もう一度強調しておく。
6 話し合い	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">柱1：2組と3組に提案するためのプロジェクトの提案内容を決めよう。</div>	
(1) アイディアタイム (原案を提案する)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合いの流れを、児童一人一人に確認させておく。 ○ 意見が言いやすいように、個人ノートに励ましのコメントなどを書いておく。 ○ 個人ノートに書いていないことでも、友達の意見を聞いて付加・修正をしてよいことを伝えておく。 ○ 話し合いが行き詰りそうになったら、児童が提案理由や話し合いのめあてに立ち返ることができるよう助言をする。
(2) 質問タイム (質問する)	
(3) なるほどタイム (意見を出す)	
(4) まとめタイム (原案を見直す) ※自分が参加したい原案グループに移動	
(5) にこにこタイム (まとめる)	
7 決まったことの発表	○ はっきりと大きな声で言うように伝えておく。
9 話し合いの振り返り(自己評価と感想)	○ 児童の感想を見て、先生の話で生かせるようにする。
8 先生の話	
10 終わりの言葉	○ 話し合いで決まったことのよさ、司会者グループへの労い、集会への意欲付けなどを行う。また、話し合いでの友達や自分の頑張りを含めた感想を言うことができるようにしておく。

(3) 事後の活動

児童の活動	教師の指導と支援	日時
1 実行委員で提案計画、係分担計画を作成し、提案する。	○ 全員がどれかの提案グループに入り、それぞれのメンバーを明記し掲示する。	月日 昼休み
2 各提案グループで提案の準備をする。	○ 見通しをもって活動できるように、計画表を掲示したり、可能な限り時間を確保したりする。	月日 ～月日
3 提案グループごとリハーサルをする。		
4 提案を実施する。	○ できるだけ児童の手に任せ、相手に語りかけるような提案となるように、随時適切な助言や励ましの言葉かけを行う。	月日 ○校時
5 活動を振り返る。	○ みんなで作り上げた提案のよさについて、話し合い、準備、本番のあらゆる場面に目を向けるようにする。	月日 帰りの会

	○ 提案者に感想を言わせる。	
--	----------------	--

8 評価

- クラスを学級目標に近づけるために、それぞれの役割を自覚しながら学級会を計画・実行し、学級の一員としての自覚や連帯感を深め、満足感、達成感を味わうことができたか。
(関心・意欲・態度)
- 自分の考えを提案理由と結びつけながら提案をよりよくするための工夫を考えることができたか。
(思考・判断)
- 自分の考えを、その理由とともに友達に分かりやすく伝えることができたか。 (技能・表現)
- 話し合いで決まったことが分かり、自分の役割を果たすことができたか。 (知識・理解)